

2017春季生活闘争

J R 連 合 F A X ニ ュ ー ス No. 6

2017年2月10日 日本鉄道労働組合連合会（JR連合）

J R 九州労組が「第 29 回定期中央委員会」を開催！

**組合員・家族・グループ労組総がかりで、
働きがいある J R 九州グループをつくる！
純ベア 3,000 円を含む「月例賃金総額 6,000 以上」、
「総合労働条件の改善」を掲げた要求を決定！**

2月8日、JR九州労組は、北九州市内のステーションホテル小倉において、第29回定期中央委員会を開催し、安全確立、組織の強化・拡大、2017春季生活闘争勝利、各種業務・政策課題の解決、中間地方選挙（那珂川町議会、湧水町議会）における推薦議員の勝利にむけて、「当面する活動方針」を討議、決定した。

許斐中央執行委員長が中央執行部を代表して挨拶を行い、冒頭「『平成28年熊本地震』からの復興はまだ道半ばであり、被災した豊肥本線は復旧の目処が立っておらず、引き続き復興・復旧の支援や要請が必要であること」、「2月の大津町議会議員選挙の勝利、4月に予定されている湧水町議会議員選挙の取り組み要請」に触れた。そして「度重なり発生し輸送障害を振り返り『発注元のチェック機能・技術力の低下』に対する危機感、労働組合としての取り組みの必要性」、「種々の効率化施策やダイヤ改正、日豊線における4両ワンマン運転（特急等）、要員配置に係る課題などの重要業務課題に対するスタンス＝『協力と対立』」、「株式上場・完全民営化、内外の動きと今後待ち受けている労使の課題、鉄道ネットワークの維持・発展に向けた取り組み」等に触れつつ、その中で迎える2017春季生活闘争においては、「組合員の奮闘と負託に応えるべく、月例賃金にこだわった闘いを強化・徹底すること、組合員・家族総がかりの闘いを粘り強く展開する強い決意」を語った。

来賓としては、大津町議会選挙で初当選した山部良二町議会議員（組織内）と、JR連合の政所政策・調査部長が参画し、自然災害からの復興・復旧、2017春季生活闘争、民主化闘争、地方鉄道ネットワークの維持・発展をはじめ各種政策課題の取り組みなどについて挨拶を行った。

質疑では、15名の中央委員・特別中央委員より、①安全確立に向けた取り組み、②2017春季生活闘争、③効率化施策とその進め方、④日豊本線における4両ワンマン運転、要員不足等の業務課題、⑤政治活動参議院選挙、⑤支部体制のあり方や青年女性委員会の育成等、組織の充実・強化についてなど、多岐にわたる活発な発言があり、中央執行部からの中間答弁後も熱い質疑応答が行われた。

総括答弁に立った中原書記長は、組合員からの強く切実な声が上がっている効率化施策や4両ワンマン運転の課題等について重点的な考えを述べるとともに、2017春季生活闘争をはじめ、組織課題、政策課題などの諸課題の解決、中間地方選挙等に向けた強い決意を述べるとともに、組合員・家族総掛かりの取り組み強化を要請し、執行部から示された方針案が出席者全員で確認された。

最後に「課題に真摯に向き合い、諸先輩方築き上げてきた運動と想いを次代に継承し、強固なJR九州労組を創り上げていく責務と、組織の力の総結集を図る」との委員会宣言を採択した後、許斐委員長が団結ガンバローで閉会した。

以上